

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171300187		
法人名	社会福祉法人 大樹会		
事業所名	グループホームこむろん家		
所在地	埼玉県北足立郡伊奈町小室10145-1		
自己評価作成日	平成 28年 2月 29日	評価結果市町村受理日	平成28年 5月 2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/11/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigvsoCd=1171300187-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階
訪問調査日	平成 28年 3月 16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本年度目標 「一人一人(お年より)がほっとする、笑顔あふれる生活空間を大切にします。」
 毎年目標設定する事で、スタッフ全員が反省、振り返りを共有している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田園地帯に位置し、和風の割烹旅館を思わせるような、平屋建造りの事業所である。法人の理念はもとより、事業所独自に「一人ひとりが、ほっとする、笑顔あふれる生活空間を大切にします。」を目標に設定している。管理者をはじめ、職員は、常にこの目標を念頭に、利用者の目線に合わせた介護に努めている。毎月の会議で、目標の進捗状況や見直しなども行っている。朝夕の食事は、職員と利用者が一緒に買い出しに行き、一緒に作っている。お昼は、隣接のデイサービスの厨房で作り、運ばれて来るが、利用者職員が一緒に食事をし、一人ひとりに寄り添いながら、会話などを楽しんでいる。医療との連携では、提携クリニックが月2回の訪問診療、訪問歯科も月1回来訪している。隣接のデイサービスには、看護師が常駐しているので、安心の体制となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年間目標に地域との連携を揚げ、運営推進会議や各種事業会議の際、声掛けをしている。	法人の理念とは別に事業所の理念も設定している。具体的な目標を持ち、月1回の会議で確認し、目標の見直しも行っている。笑顔で、一人ひとりに寄り添うケアは、利用者の喜びに繋がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	避難訓練や運営推進会議の際コミュニケーション図れるよう工夫している。	系列の介護老人福祉施設の夏祭りに参加している。近所を散歩しながら、地域の人達と顔見知りになり、交流も深まっている。ボランティアも紙芝居、ウクレレ、アコーディオン、傾聴など多彩で利用者に喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の行事や催し等参加している。 民生委員の訪問もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場職員、民生児童委員、家族、包括他参加にて、施設の活動報告等話し合いを行っている。 (年6回実施している。)	定期的に開催している。メンバーは、役場職員、地域包括支援センター、民生委員、家族、事業所代表等である。会議の後に、避難訓練等も行っている。おれおれ詐欺対策、食事をテーマにしたものなど多彩である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村職員、包括支援センターの方々との情報交換、連携を取っている。	運営推進会議の案内や、議事録など直接持参している。また、地域包括支援センターには、事業所の現状報告もしている。また、認知症サポーター養成講座やケアマネジャーの勉強会にも積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人運営方針とケアの実践にて、身体拘束はない。	法人全体で年1回「身体拘束しないケア」の研修を行っている。事業所では、新聞記事などを参考に随時研修を行っている。また、日々のケアのなかでも、言葉使いには、注意していて、スピーチロックにならないように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修等、虐待は決して行わない決意で取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や社内研修にて得た情報をグループホーム会議等で報告し伝達を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明すると共に、その後も機会ある毎に疑問などないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス担当者会議で意見を求めると共に、来訪時に出来るだけ時間を取り意見を求めている。	運営推進会議や、敬老会、誕生日会などに合わせて家族に来て頂き、意見交換している。また、毎週、少なくとも10日以内に必ず家族と連絡をとることを決め事としている。また、写真入りのお便りも毎月発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や連絡ノートを活用している。 日常会話も積極的に取り入れている。	グループホーム会議を月1回開催。全員参加で開催して、意見を出し合っている。併せて、ケアカンファレンスも実施している。また、年に1～2回、賞与時や契約更新時に個人面談を実施して、要望を汲み取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一度の面接等で、各自の目標を明確化している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回の全体研修へ、全員参加してもらう。各種研修の参加や資格取得も協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全体研修の中で、他施設の見学や他部署の体験の機会を作り、サービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意見に耳を傾け、各種資料から個人の情報をスタッフ全員が共有し把握している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前の実地調査の段階から、家族の意見を十分に汲み取る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実地調査から契約において、十分な情報収集を回ると共に、その後早い段階でケアマネージャー中心にサービス担当者会議を行い情報の共有、把握に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の業務やレクレーションを通して、互いに協調できる場を提供している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にコミュニケーションを通じて情報を出し合い共有を関わっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい方(親戚、兄弟・姉妹・家族)へ頻繁に連絡したり、訪問の受け入れを積極的に行っている。	知人や友人が遠方から訪ねてきて、懇談している。また、近所の公園や馴染みのバラ園、さくらの名所、ショッピングモールなどにも出かけている。家族と一緒にの食事や買い物も楽しみのひとつである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に座席の位置を変更したり、共に出来るレクレーションを考えたり、スタッフも関われる様チームケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内施設に移った方を訪問したり、家族にその後の様子を尋ねるなど、関係維持を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で希望を聞いたり、居室担当者を設置したり、特に困難な場合には、家族を交え検討している。	入居時、本人や家族から、過去の生活歴、趣味、嗜好など細かく確認している。日々の生活の中でも利用者との会話の中から、裁縫をしたい、折り紙を作りたい、料理をしたいなど、願いや希望を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今迄の日常生活の中で、家族や本人から馴染みの暮らしを聞き出す努力をし、個性を生かした環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活の中で、掃除、洗濯、料理、レクリエーションを共に行う事で、変化を見極めている。一人一人のコミュニケーションを大切にしながら現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス(ケース会議)等、話し合いの中で実施している。	ケアプランは半年に1回見直し、モニタリングは3か月に1度実施している。連絡ノート、会議議事録、カンファレンス会議録を持ち寄り、ケアマネジャー、居室担当、職員が話し合い、一緒に計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の生活で、体調、精神面を観察し、細かな事でも個別記録に残し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	担当制、チームケアにて常に変化を意識し情報の共有化を元実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日常的に行われている外出にて、地域資源を有効に利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望で往診、受診を決定している。 受診時には、日々の様子を含め家族に伝えている。往診時には職員が付き添い医師に様子を伝えている。	在宅からのかかりつけ医を利用している人も多い。提携医は、月2回訪問診療に来ている。併設のデイサービスに看護師がいるので、何かと相談している。また、訪問歯科は、月1回口腔ケアに来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良時等、隣接しているデイサービスの看護課と連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ソーシャルワーカーとの連携。 入退院時の情報交換(サマリー等)している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で指針を提示して理解を求め、共通の認識を持つよう努力している。	事業所の見学や、契約時に重度化した場合や終末期の対応について、詳しく説明している。当事業所では、重度化した場合は、他の介護老人福祉施設などに入居の紹介をすることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会や研修会を実施している。 デイサービスや特養看護課との連携を取っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的(年4回)に、全職員参加の消防訓練(日中・夜間)を実施している。	避難訓練は年4回実施している。運営推進会議を活用して、会議後に訓練を行うこともある。消防署が4回全て立ち合い、日中、夜間想定や消火器の使い方等訓練している。近くの系列施設の支援体制が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活での自己決定を大切にしている。他の入居者に聞かれたくない事等、場所を変えたり、傾聴する姿勢を大切にし人格を尊重するように努力している。	書類は、ファイルで綴じてロッカーで管理、夜間は施錠している。パソコンは、ワードやエクセルなど書類作成のみである。プライバシーについては、浴室やトイレの扉は必ず閉める習慣としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の会話や態度、表情に気を配り、自己決定出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時以外は、入居者のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った好みの物を、職員と一緒にコミュニケーション取りながら着て頂いている。理美容も定期的に来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「出来る事」を全員で分担して実施している。時にはメニュー作りにも参加されている。食卓には、明るくなる様花を飾ったり工夫している。	朝、夕の食事は、食材を買い出しに行き、担当が作る。お昼は、併設のデイサービスで作り運ばれてくる。配膳、下膳は職員と一緒にやっている。また、正月のおせちや鰻、寿司など四季折々の食事も楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じて、個々に合わせた栄養バランスや量を工夫している。規則正しい生活にて水分確保が出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。訪問歯科によるケアも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方以外は、排泄チェック表を使いパターンを把握するよう努めている。	排泄チェック表を作成し、パターンを把握して、定時にトイレ誘導している。自分でトイレに行ける人が多いので見守りを中心としている。また、排尿、排便コントロールを日誌にチェックしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物の工夫や適度に繊維が取れる様、食材にも気配りしている。 適度な運動や散歩も実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各地域の温泉(入浴剤)を使用したり、音楽を流したり、楽しめる空間作りを工夫している。 入居者の自己決定も大切にしている。	週3回入浴を基本としている。時間帯は午後1時半頃から4時頃までとしている。季節を感じるように、いちご風呂、ゆず湯、菖蒲湯は利用者に喜ばれている。また、入浴嫌いな人には、前もって話したり工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	行動についての制限はしていない。 今迄の生活習慣を大切に照明やベッド位置等、本人希望に応じた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ファイルにて、全員が共有出来る様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の際の準備、片付けや掃除に至るまで、役割分担が出来ていて、自主的に行われている。 日々のレクリエーションも、個々に合わせて行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出できるよう、支援している。 家族や知人の来訪も多く、散歩や食事、買い物などに出かけている。	天気の良い日には、近所や庭を散歩したり、ベランダで外気浴を楽しんでいる。また、車で、近くの公園、馴染みのバラ園に行ったり、ショッピングモールなどでは、食事や買い物を楽しんでいる。家族同行での自宅一時立ち寄りやお墓参りもある。	近所を散歩したり、近くのバラ園、ショッピングモールなどに出向いているが、一人ひとりの希望を叶える外出支援は、やや不十分と言える。今後は、個別の希望等を聞きながら、外出先や回数を増やすことに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	物品等、必要時には、家族に連絡し対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	積極的に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ、家庭的で居心地の良い空間作りに気を配っている。 季節を感じて頂く様、花や飾り絵等工夫している。	リビングは、天井が高く、窓は大きく、明るく開放的である。空調や加湿器が備え付けられていて、日差しが強い時は、障子で遮る和の空間となっている。L時型のキッチンは見守りに最適な造りで、壁には、四季を感じる手作りの壁画が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数人用ソファーや、座席位置を替えるなど個人の時間を大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	特別なもの以外、お好きな物を持ち込んで頂き、居心地のいい居室にして頂いている。 家具の配置や模様替えを自由にしレイアウトし職員が手伝っている。	空調、ロッカー、ベッド、洗面台、カーテンは備え付けられている。その他は、持ち込み自由である。馴染みの物、テレビ、仏壇など持ち込んでいる。また、掃除は、職員と一緒にやっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースを広く取っている。 必要な個所には、手すりなど設置している。		